

障害者スポ支援 京都の企業熱く



障害者スポーツを支援する京都の企業が増えている。2020年の東京パラリンピックに向けた関心の高まりを背景に、社会貢献の一環として普及に力を入れる。11日に京都市内で開催される全国車いす駅伝など地元大会の協賛を続ける企業もあり、障害者スポーツの発展を陰で支えている。(国貞仁志)

社会貢献、東京。パラも見据え

トヨタカローラ京都(京都市中京区)は、昨年6月から社を挙げてパラリンピックの正式競技「ポッチャ」への支援を展開する。競技用具を購入し、新車販売をする府内全店店舗に体験コーナーを設けている。ルー

も並べ、普及に一役買っている。以前イベントで各種のバラスポーツを紹介した際、ポッチャは障害の有無や年齢の区別なく手軽に楽しめる競技だと認識したという。地域への普及にも

を大切にしている。企業理念にも



トヨタカローラ京都が全店舗に設けているポッチャの体験コーナー(京都市中京区)

店舗で「ポッチャ」体験
全国車いす駅伝に協賛
社員が警備ボランティア

トヨタカローラ京都
カスタネット
白川工業

合致するとして支援を決めた。

同社の折り込みチラシやホームページで、ポッチャへの支援を明示。地域住民や特別支援学校から関心が寄せられ、昨秋に府立丹波支援学校(南丹市)が催した体験教室を手伝った。同社総合企画室の田中孝洋主任は「大きなイベントに協賛金を出すのではなく、日々できる支援の在り方を考えた。まず(東京パラのある)20年までは続けたい」と話す。

小さな会社も支援を打ち出している。社員10人のオフィス文具販売カスタネット(南区)は01年の創業当

初から、京都市で実施される全国車いす駅伝と障害者シンクロナイズドスイミングフェスティバルを支援している。全国車いす駅伝への協賛金は、今年の第20回大会までで計325万円。第21回からは大会回数に1万円を掛けた額に変え、年々増額している。

会社が赤字の時も継続してきたという榎木力社長(59)は「障害者スポーツを応援する企業ということではイメージが上がり、社員のモチベーションも高まる。東京パラリンピックが決まり、時代が迫りつつあった」と自負する。

建設業の白川工業(宇治市)は、昨年の全国車いす駅伝から沿道警備のボランティアに約30人の社員を派遣する。京都障害者スポーツ振興会(左区)は「障害者スポーツに熱い思いを持って支援してくれる企業存在はありがたい」と感謝する。



全国車いす駅伝の大会回数に応じて協賛金額を増やしているカスタネットの榎木社長(京都市南区)